

仙台市本庁舎建替基本設計公募型プロポーザル 第2回審査委員会 議事録

日 時： 令和 2 年11月18日(水) 10:30～15:40

場 所： 仙台パークビル 2 階ホール1

出 席： 伊東豊雄委員長、佐藤滋副委員長、乾久美子委員、小林光委員、佐々木睦朗委員、岩城利宏委員

内 容： 1 開会

2 議事

(1)審査会の内容について

(2)技術提案書審査

(3)技術提案書に係る全体意見交換

(4)参加表明書審査

(5)一次審査結果報告

1 開会・進行説明

・ 全委員、事務局について、参加者や関係者と思われる者等と接触が無かったことを確認。

2 議事

(1) 審査会の内容について

委員長)本日の会議は設計者選定に関わる内容であり、審議内容の中立性を担保する観点から非公開とすることでよろしいか。

一 同)異議なし

委員長)議事録の作成について、発言者が特定されない形で作成し、私と名簿順に小林委員による署名をもって正式な議事録とすることでよろしいか。

一 同)異議なし

委員長)本委員会の流れについて、事務局より説明をお願いしたい。

※ 事務局より委員会の流れについて説明

(2) 技術提案書審査

委員長)次に技術提案書審査に入る。初めに、各参加者の技術提案の概要について、事務局から説明をお願いしたい。

※ 事務局より参加者の技術提案の概略を説明

委員長)これより、技術提案に関する意見交換を行う。参加者順に、技術提案に対する感想や気づき、ご意見などをご議論いただきたい。

① 参加者1について

- ・ 木のルーバーや 2 層のピロティが特徴的で、バルコニーの部分は環境配慮の点でも有効と考えられるが、提案の記述が不足しており内容が読み取れない。断面の詳細やピロティの使い方など、どのように市民参加を促すのかというイメージが分かりにくい。

- ・ 構造は単純明快で、無難、実現性が高いと思われる。
- ・ 設備・環境面では、全体的に技術的な裏付けの記述が不足していると思う。ルーバーは、騒音や雨風にどのように対応するのか、また、機械ファンが設置されているわけではないため、室内側の圧力がどのようになっており、空気の入りがどうなっているのかははっきりしない。
- ・ 全体的に記述が不足しているが、特に大震災を踏まえた記述が足りないことが残念。バルコニーの部分も、打合せ等として使った場合に執務室と分断されてしまい、使い勝手の観点では懸念がある。
- ・ あまり書き込んでいないという点をフレキシビリティがあるという解釈もできるが、提案自体は堅実だという印象。
- ・ 大きなルーバーがポイントとなるが、木のルーバーが水平で、雨が溜まりやすいため腐食が懸念される。この案の要が木製ルーバーのため、ルーバーが成功しないと台無しになってしまうと思われる。
- ・ 低層部について記述が少なく、あまり考えられていない印象であり、市民に集まってもらえるか疑問がある。

② 参加者2

- ・ 建物を西側に寄せて東側に半屋外のアトリウムを置き、南北通り抜ける動線がとられていることは良いと思う。一方、西側に建物を寄せたことで、西側住民に対する配慮がもう少し欲しい。全方位的な視点が不足している。アトリウムについて、場所の提案はあるが、使い方のアイデアが求められる。
- ・ 市民協働の場に窓口機能を寄せ、手続きに来た市民にも配慮しているが、政令市の場合、市民窓口は区役所が中心であり、市民協働に資する打合せスペースや会議室が多く求められると考える。
- ・ 構造的には、連結免制震構造の実現が可能なのか疑問がある。地震力を約 25%削減と言っているが、長町・利府断層が近いこの立地において、複雑な地震波にすべて耐え得るかどうか疑問がある。
- ・ 低層部分に木造のストラクチャーがあり、その上に屋上緑化があるため、重量と雨水が相当量になると思われる。排水等を考えると雨どいなどが多く必要になるかと思うが、どう考えられているか不明。また、空調方式としてセントラル方式を思わせる設備配置であるが、個別空調をうたっており、ZEBの実現という点では、良い組み合わせか疑問がある。
- ・ 低層部や市民広場の使い方としては望ましいと考える。勾当台公園市民広場は、他自治体の物産展等のイベント会場としてのニーズは多く、屋根付きイベントスペースとしての需要があるものとする。
- ・ 東側の街路に面した並木部分について、賑わいを創出するに至らないのではないかとと思われる。断面図で、途中階に階段などを配置しており、これが平面とどのように対応するかが不明である。建物を西側に寄せており、敷地周辺の再開発等の動向を踏まえると、配置としてはありなのかもしれないが全体的には課題がある印象。
- ・ 新しいオフィスビルという印象。低層部は大きなイベント等には有効かと思われるが、日常的な使い方が難しそうで、駅のプラットフォームのように通過するだけのスペースになりそう。

③ 参加者3

- ・ スキップフロアで、執務室が数珠つなぎとなっているが、防火シャッターが必要になるのではないかと。例えば会議室の角を丸めるなど「リーフ」という考えで、様々なことを解決とあるが、何が解決されるのか読み取れなかった。低層部については、どのように使うかといった内容が不足している。

- ・フロアをスキップさせた時に、床がどのようなつながれ方をしているのか、断面図をみても読み取れなかった。一方で、外周部の剛性を高める提案はわかりやすい。コアも、どの様に床がつながり連結されているかが重要であり、偏心のねじれの問題が出てくるとは思われる。
- ・様々な環境技術が入っていて経験値が高く、複雑なエンジニアリングができるチームと思われる。真ん中のボイドについて、他の空間と区切られているか否かで、空気と熱の流れが大きく変わる。区切られていないと空調のコントロールが難しく、ZEBの達成には困難が伴うと思われる。
- ・スキップフロアは商店街からの空間の連続性という点で評価はできるが、コスト・執務室の取り方で不安がある。一つのフロアに収まらない部局もあり、執務室がつながっていることは市民・職員にとっても横のつながりという点では良い点もあると思う。イニシャルのコスト削減案についても触れられている。
- ・スキップフロアや中央の吹き抜けについては、市役所の執務室としての親和性が低い印象を受けた。フレキシビリティが損なわれないか心配である。
- ・スキップフロアの中央部が日常的にきちんと市民利用されれば、賑わいや市民協働の場となると思うが、実現性が見えてこない。全体的にボリュームが大きい印象があり、コスト面で不安がある。

④ 参加者4

- ・木質系の庁舎という点が特徴的で、市民協働・日常使いのアイデアが盛り込まれている。執務スペースについては、もう少し骨格レベルで執務環境について考えてほしかったという印象。保育施設の設置や、議場が低層配置となっており、本庁舎建替基本計画等の資料の読み込みが不足していると思う。外部に木材を使用している点についても、耐久性の面で不安がある。
- ・木造と鉄骨構造のハイブリットについては別々の構造の建物を組み合わせて使用する印象があり、木で見せるところは木造で見せて、鉄骨で支えるところは鉄骨構造という、表と裏があまりにもはっきりしている提案という印象を受けた。鉄骨のブレースという記述もあるが図面では読み取れず、免震装置を使用するとねじれの問題はないと提案されているが、その点は不明であり免震装置に頼りすぎている印象を受けた。
- ・大きなボイドがあり、その途中に穴が開いている。ボイドによる目的や効果が不明で、途中の横穴によって圧力が変わるので、煙突効果による自然換気が難しいと思われる。
- ・市民協働スペースが現高層棟を解体するまで使えない懸念があり、竣工から執務にも市民協働にも使える状態であってほしい。また、木造については、耐久性に不安が残る。「巣」というコンセプトについても「巣ごもり」を連想させ、これからの職員は外に出て市民とともに汗をかく姿勢が求められると考えられ、違う印象を受けた。
- ・東南に面している提案が、大きなインパクトになっている。東側の街路に接している部分も様々な施設をつくって、1階にはイベントや市民協働など、楽しい空間を感じてもらえるようなイメージが書き込まれている。敷地北側についても将来の開発につながる可能性を秘めている。都市に対しての広がりやつながりは良く描かれている。
- ・東南に面した配置は意欲的な提案だと思う。他の建物に比べてかなり際立つものではないかと思われるが、木材を多用する提案の割には、木の説明が少なく、どういう木なのか不安がある。
- ・議会機能を低層にする提案であり、議会機能の高層配置が提案の与件であることは理解している

が、市民に開かれた議会という考えから、議会配置を提案に含め、設計で検討するということがあったかと思われる。

⑤ 参加者5

- ・ 断面のゾーニングが上手く、市長室や災害対策本部から低層部が見えるという点は、災害対策機能の中心という点に答えて、市民協働の場づくりという点において、考えられていると思う。大平面であり、執務フロアの快適性について懸念はあるが、吹き抜け空間を2つ用いることで、空間をやや分節し、執務環境を担保していこうという努力が見られた。
- ・ 高層・中層・低層の3層に分けた異なる構造にしている点が面白いが、説明が不十分で意図が読み取りにくかった。鉄骨格子梁構造としており、逆梁を設置することで執務室の天井をフリーにするといった目的と思われるが、説明がわかりにくい。
- ・ 4階の床レベルにおいて、どのように柱を支えているのか、制震・耐震ブレースと称しているが、Y方向はどうなっているのか、など構造が分からない点が多い。コストはかかりそうだという印象。
- ・ エネルギー面では、大平面で外皮面積が小さくなると、空調効率にはプラスとなり、ZEB Readyを目指す上では悪くない提案と思う。メンテナンスの面では、枯葉の処理や植替え等で維持管理コストが高くなる懸念があるが、全体的にはまとまった案である印象。
- ・ 外観が凸凹しすぎている印象があるが、大空間の無天井化など、建物本体に加えて内装部分についても、震災の経験を踏まえた配慮がある。大フロアについては、案内サインの複雑性や移動距離が長くなるという懸念があり、ユニバーサルデザインなど運用上の工夫は必要。一方、1フロアあたりの面積が大きいと、見通しが良くなるため、今後の仕事の進め方を考えるとプラスと思う。
- ・ 南にきっちり面し、市民広場を前面に置き、11階に収めたというのが、周辺と比べてもバランスが良いと考えるが、東側への配慮が不足している印象はある。低層部の日常と災害時の変移については、もっと考える必要があるが、可能性があるのは良いと思う。
- ・ 低層として水平性を強調しており、大平面に対して、2つのボイドで光の環境をコントロールするのは、上手いやり方だと思う。3層の構造は、もう少しはっきり表現に出すことで、より水平性が強調され、低層部も日常的にも使いやすい空間になるのではないかとと思われる。

⑥ 参加者6

- ・ 丘と家と木になぞらえ機能を配置し、市民の活動する場にシンボリックな意味を与えている。スキップフロアとし、部署間の連携等を図るという意思が感じられ、意欲的な提案と考えるが、現庁舎に建物の一部が干渉していることによる工事工程上の課題がある。また、柱部分は、ブレースがかなり必要となるが、提案書にあまり描かれておらず、提案内容と実際の建物とのギャップが懸念される。
- ・ 挑戦的な提案だと思う。構造については、実際のプランに落としたときに柱がどうなっているのかなど、提案書にトラスがあるように見えるがあまり読み取れない。外壁率や大きく開いたピロティ、外構の盛土などにより、イニシャルコストが大きくなる事が想定される。
- ・ 環境面については、意欲的だが実現性に疑問がある記述も目立つ。周囲の温度を下げる効果には疑問があり、庁舎だけで緑を頑張る問題でもないと思う。ボリュームがある木が多いと灌水システム用の配管を外周部分等全面に配置することになり、コストが嵩む。ボイドについても、流体解析から良い結

果がでるとあるが効果が得られるか疑問がある。ZEBの観点からは、太陽電池の設置面が少なくなる点が懸念。

- ・ 上部構造が重いといった不安感は、市民に対し安全安心を守るといったメッセージを適切に伝えられるか疑問がある。災害に対して脆弱な印象を与えてしまわないか懸念される。
- ・ 樹を意識したシンボル性が強い提案だが、超えるべき課題は多いと思う。課題解決や市民参加の検討を短期間にすべてできるか疑問がある。
- ・ 提案書では斜めのブレースがあり、詳細までの記述はないが、しっかり入っていれば構造的には問題ないのではないか。井桁にかかる部分がスキップフロアなので、こちらの方が構造的には複雑。

⑦ 参加者7

- ・ 柔らかい円形の形状が特徴的で、街に柔らかい印象を与える。内部は、カウンターが全面に入っており、使い勝手と整合が取れているかは疑問がある。各フロアのプランが同じであり、具体の提案があまりない印象がある。
- ・ 大スパンを実現する必然性に疑問がある。不可能ではないが、外観が煩雑になる印象もあり、構造計画の意図があまり読み取れない。
- ・ 二層分のガラス壁面となっており、熱負荷がかなり大きくなると思われる。ハーフミラー等の提案はあるものの、全面がガラスのため、エネルギー的にはかなり不利と思われる。中二階の空間の提案についても、温熱環境的にはかなり不利と思われる。
- ・ カウンターのある執務環境については、政令市の本庁舎であることを念頭に置いてほしい。分棟を北側に配置する提案だが、使い勝手等から一体整備が望ましい。整備費用が本庁舎建替基本計画で想定する事業費に比べてかなり安くなっているが、実現性や根拠に疑問が残る。
- ・ コンセプトは魅力的な提案もあるが、機能毎に見れば整合がとれていない部分が見受けられ、災害時等を考えた時に運用が難しいプランではないかと思う。
- ・ 外観部分に鉄骨柱が配置されているが、実際にこのように配置できるのか疑問である。階高が2層分あり、座屈の問題があるので簡単ではない。床の構造等も方杖がつくなど複雑で、構造コストも割安とはならないのではないか。複雑なトラス構造を採用する意図が読み取りにくい。

⑧ 参加者8

- ・ 本庁舎建替基本計画に実直に答えた提案であり、機械的に組み立てて、解釈すればこうなるといった提案だが、プラスアルファの提案が見えにくい。低層部の提案については、具体的にどのような場としていくかのアイデアが見えず、悪いところがあるわけではないが、評価しにくい。
- ・ 構造的には問題はないと思うが、具体的に何を提案しているかは読み取りにくい。どのように評価するかは別として今の庁舎とあまり変わらないのではないかと思う。
- ・ 環境設備的に重要な点として確実性があり、無難で堅実な印象である。オフィスの設計としてはありだが、市役所であれば設備や環境は空間の設計と並行して検討する必要があると思う。そこに踏み込んだ提案が欲しいところ。
- ・ 周辺状況を理解した上での提案と思われる。勾当台公園との一体性や、防災環境都市を学べる場としての庁舎の使い方、一部西側に低層部の賑わいのスペースを設けている点など、市の拠点、発信の

場として提案がなされていると思われる。

- ・ 外側に木を使っている点は長い目で見た際に木が黒くなるなどランニングコスト的に懸念がある。
- ・ 実直に提案されており、広場や低層部は使いやすい提案になっていると思う。
- ・ 各機能の間で発生する魅力があると思うが、プランニングが機能で分割されており、もう少し機能連結の魅力がほしいところ。

⑨ 参加者9

- ・ 中に広場を抱え込み、上層階から見える構造にしている。大きな吹き抜けによって各階が異なるフロア形状になっており、各フロアのプランニングが難しそう。また実際に作られたら外観は普通のビルになってしまう懸念がある。
- ・ 免震装置が万能であるといった論調が多いように見受けられる。壁柱を立てて外周部の構造計画は読み取れるが、内部や床の構造に不明点が多い。
- ・ 環境工学的には大胆に穴をあけ、光と風を導き取り入れるというエッセンス自体は興味深い。一方、各フロアの形状が異なるため、水回り等の設備関係の配置が限定され、制約が多くなり、実現にあたっては苦勞が多いと思う。太陽光パネルの容量は、100kW と具体的な数値の記載があり、建築以外の部分で、環境的視点にも配慮されている印象。
- ・ 2つのボイドがポイントとなりそうだが、フロアごとにレイアウトが異なるというのは、使い方が難しい。環境配慮という点で、ボイドによって風・光を取り入れるという技法は他都市の庁舎でも事例はあると聞くので、エッセンスとしては評価できるのではないかと。
- ・ チャレンジという点では敬意を表したい。一方で、この通りに仕上げることは難しいと思われる。
- ・ 各フロアですずれていくボイド自体は興味深く、完成した後も使い方を有機的に変えていくという動きを庁舎内に起こすのではないかと期待がある。一方で、広場の大空間の使い方について、説明が不足しており、市民利用機能をどう果たしていくのかが見えにくい。壁柱がうまく表現されれば、比較的強い表現の外観ができるのではないと思う。

⑩ 参加者10

- ・ 市民協働の場を低層階に配置しつつも、上層の執務フロアにも市民協働の場を展開できる可能性を残しており検討の跡が見られる。「みち」というものを引き込み立体的に作り、「みせ」という箱を落とし込んでいく。執務フロアは各階で異なるレイアウトを可能としており、プランニングとしては練られている印象。分散的に大部屋を配置しつつ、通路で一体感を出せている。
- ・ コアを分散配置にする明快なプランとして練られている。構造も明快で上からの柱をメガトラスで受け、そのメガトラスが扁平方向(東西方向)の足元を5階レベルで固めているわかりやすい構造。
- ・ 形状が比較的整形であり、無理のない提案という印象。設備的な面では、デシカント空調機を提案しているが、この方式が仙台の気候に適合できるかはわからない。太陽光発電は容量が50kWと書かれており、将来的に Nearly ZEB を見据えるのであればもう少し容量や断熱性能を上げて良いと思う。ライフサイクルコストの観点でのチャレンジがもっとあればよいと思った。
- ・ 東日本大震災を踏まえたコンセプトや、仙台市地域防災リーダーの書き込みもあり、免震制震装置の設置とともに災害への備えが考えられている。一方で市民活動も様々なパターンがあり、小さいもの

に限るというのも、多様性に乏しいという印象。外観については、あまり凸凹させる必要性を感じない。

- ・ 東、南の街路を活動的にする提案で、北側街路も大事にしている点や、各階のプランもフレキシブルに対応できるようになっている点は評価できる。「みち」の空間が魅力的かは疑問が残る。
- ・ 東日本大震災からコンセプトを導いている点は評価できる。全体構成もできている印象だが、「みち」の空間については、もう少し柔らかく魅力的にできないかと思う。

(3) 技術提案書に係る全体意見交換

- ・ 意見交換であったような聞きたいポイント等について、あらかじめ参加者に伝えておくことはできないか。
- ・ 質問内容は、公平性の観点から原則公表が必要であり、参加者ごとに異なる情報を提供することは難しい。質問の事前提示は無しとしたい。

※各委員による技術提案書の採点・事務局による集計作業

(4) 参加表明書審査・一次審査結果報告

※ 事務局より、参加表明書評価表について説明

- ・ 技術提案書の評価に参加表明書の評価を加え、一次審査の集計結果を報告
- ・ 二次審査へ進むのは、参加者2、5、6、9、10で決定とする。